

令和元年度 第2回古賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証会議議事録（要点筆記）

日時 令和元年11月28日（木）10:00～11:30

場所 市役所第2庁舎2階中会議室

出席者：松野尾委員長、藤川委員、宮原委員、野依委員、三島委員（欠席 梁井委員）

事務局：古賀市 吉村総務部長

経営企画課 大浦課長 久保係長、吉野業務主査

公益財団法人九州経済調査協会（以下「九経調」）

傍聴者：なし

松野尾委員長

定刻になりましたので、「令和元年度 第2回古賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証会議」を開会します。

本日、委員6名のうち5名出席のため会議は成立となります。

1. 総務部長あいさつ

吉村総務部長からあいさつ

2. 議題

松野尾委員長

つぎに、「2. 議題」の（1）第2期古賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定状況についてについて事務局から説明をお願いします。

事務局

第2期古賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定スケジュールについて説明

九経調

古賀市基礎調査報告書（案）及び古賀市まちづくりに関する市民アンケート報告書（案）並びに第2期古賀市人口ビジョン（案）について説明

事務局

第2期古賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について説明

松野尾委員長

それでは本日の説明内容について、委員の皆さまからご意見、ご質問がございましたらお願いします。

宮原委員

「関係人口」について説明いただきたい。また、「SDGs」を総合戦略に記載する意味とは？ SDGsに地方創生が付くと何が違ってくるのか。

事務局

関係人口は、国の意図としては、移住でもない、観光でもない、端的にいうと、ふるさと納税をしてくれる人、新着HPを心待ちに見てくれる人、そうしたファンのような人たちも含めた人口を指している。国では、「関係人口」の創出・拡大については、移住や定住が難しく戦略を進めにくい過疎地域は、直接的な交流人口を増やすのは困難なため、『関係人口を増やす』とう方向も可としていると思う。

SDGsは17のゴールと169のターゲットが国際的な目標値だが、地方創生SDGsは、SDGsの誰も取り残さないという考え方、その視点から地方創生に取り組んではどうかと国が地方に投げかけているもの。また、SDGsには、色々なものごとにはつながっていて、全ては自分ごとなのだとする考え方があるが、そうした考え方から地方創生に取り組んではどうかということである。これまで環境問題は環境省、経済の話は経済産業省、教育は文部科学省と縦割りであったが、SDGsの考え方を取り入れると、縦割りでは進められなくなる仕組みづくりが必要になる。より横断的に色々な人が色々な関わり方をして問題解決をしていくべきではないか、こうしたことを国際的に約束し、SDGsという考え方でまとめていこうというのが国の意図ではないか。

松野尾委員長

事務局は、委員から意見をいただきたい重点的な項目があれば説明いただきたい。

事務局

二つ補足で説明させていただきたい。

一つは、国の「関係人口」に対し、古賀市は「交流人口」としている点。古賀市は、交通の利便性のよさが売りであり、実際に来ていただく、住んでいただくといった、訪れていただくところをターゲットにできる余地がまだたくさんあると思われるので、「関係人口」ではなく「交流人口」を使っている。その点についてご意見をいただきたい。

もう一つは、第1期の戦略にある「若者や女性」を第2期の絞り込みイメージには記載していない点。国は今、若者や女性に限らず、高齢者、障害のある方、外国人に対してもいろいろな支援をする人づくりに重きを置いている。そういった方々に対する支援も地方創

生の中でやりましょうとっている。現市長は、多文化共生という観点から外国人、特に居住したり働きに来ている外国人に対し支援をしっかりとやっていくべきだと考えている。古賀市の基本的な考え方、優先順位は「若者や女性」でぶれていないものの、そのような経緯で、「若者や女性」にターゲットを絞った記載を控えているが、そうした方向性についてご意見をいただきたい。

三島委員

「関係人口」より観光客誘致の方向で考えているとのことだが、アンケートでは「観光地がない」と市民は感じているとの結果があった。市が何かを計画的に作ったり、あるいは魅力アップで動くとか、イベントとして何かをするとか、そういった大きなことがないと、観光客誘致はどうかと感じている。

事務局

まちづくりアンケートで特に市民の不満が高かったのは、一つは観光施策、もう一つは中心市街地の賑わいだった。そのうち観光地は、新たに今から増やすということは現実的ではないと思う。賑わいの場所として今、ニビシ醤油と協定を結び、JR古賀駅周辺の整備に本格的に取り組んでいるところであり、第2期はこれを中心に組み、まず古賀駅周辺整備を起点に交流人口を増やしていくことを考えている。これを第2期で終わらせず、その先も含めて実施していくことを考えている。

三島委員

「道の駅」を検討していると聞いたとき、そこから人の流れが変わってくるのではないかと感じた。そうした大きな集客力のあるものが一つあるだけで街の流れも展開できると思う。

事務局

今年度の公共交通に関する調査で、古賀市民の移動の拠点は古賀駅ということがより明確となり、古賀駅を拠点にきちんと街づくりを行っていくことが大事だと感じている。市としては古賀駅周辺整備を1丁目1番地の取組として進めていこうと考えており、整備による交流人口の拡大に期待をしている。

もう一点、第2期の絞り込みイメージにおいて「人材育成・外部人材の導入」は「ひとの流れの創生」の中に入れて、国は「しごとの創生」の中に入れて、仕事の担い手としての人材育成とか外国人の導入という視点で考えているが、古賀市は「ひとの流れの創生」の括りでもいいかと思っている。

「ひとの流れの創生」で大きくイメージしているのは「情報発信」、古賀市はPRする力がかかなり弱く、認知度は全国的にみても低い。そこで「ひとの流れの創生」に「情報発信

の強化」を入れ、情報発信からひとの流れを作る。これは市長も意識しており、「関係人口」をあえて使わずに「情報発信の強化」にしてもいいかと感じている。

松野尾委員長

あえて「関係人口」ではなく「交流人口」で枠組みを作ろうというのは意図があるのか。

事務局

戦略を作るに当たっては、成果を測れるものでないといけない。「関係人口」は目標値の設定が難しいため、具体的な戦略として立てるのはどうかと思っている。

松野尾委員長

戦略は定量目標の指標を提示する必要がある、それを検証していけるよう具体的な数値が見れるもので作っていききたいということか。

事務局

国が第2期で「関係人口」を言い出した背景には、もともと「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は東京一極集中を是正するという大きな目的があったものの、現状では是正できておらず、むしろ加速しているという現状がある。そうした中、「地方の街づくりの担い手として、そこに住んでいなくても何らかの関わりを持つことで、地域に貢献する人材を育てていけば、人口は少なくとも活力をもってやっっていける」という意味で、国は「関係人口」のターゲットとして過疎地域をイメージしていると思われる。古賀市はそのような地域には該当しない。

交流人口は観光という側面が強調されがちだが、古賀市の強みである企業、工場、企業に通勤している方、通学の方、こうした方々はターゲットに入れていいのではないかと考えている。ただ今後、「関係人口」の定義も慎重に見ていきたいことから、考え方として新しく取り入れる可能性もあるかも知れないというのが今の段階での考えだ。

野依委員

にぎわいの創生に関して、先般ニビシ醤油の敷地で開催された「まつり古賀」はいい祭りだった。この企画は古賀市、ニビシ、どちらからの発信だったか。また、来年以降も開催する意向はあるか。

事務局

「まつり古賀」は、例年は市役所の駐車場などで開催されているが、今年はニビシ醤油が創業100周年を迎え、その記念というか、それを機会に「まつり古賀」とコラボレーシ

ョンしたということだ。古賀市が提案しニビシ醤油に協力していただいて実現したもの。今後のことは申し上げにくいですが、今年はニビシ100周年が大きな目玉となった。

野依委員

PR力をもっとということ、
「まつり古賀」には古賀市民も大勢参加し、どんどん発信していくと良い。ニビシ醤油との協定締結の話はマスコミの扱いが小さかったので、もっとたくさんの人が知るべきだったと思う。

まずは、市がこういう動きをしているという、住民の認知度をもっと上げていくことが必要。外への発信も大事だが、市民が「まつり古賀」がよかったと語り合ったり、ニビシとの協定に期待していることだったり、地元の人をもっと地元のことを知る機会を増やすのが大事だ。

先ほど「女性や若者」を外そうかという話があったが、そこは検討中ということか。

事務局

今のところ「女性や若者に選ばれる」は変わらないと思いながら、「子育て・教育応援」というのは偏りがあるのではないかと感じている。当然、子育て・教育応援は、総合計画の中ではしっかり取り組んでいくところだが、総合戦略では、施策の絞り込みの内容とめざす姿を整合させるべきと考えている。

野依委員

今回のアンケートを見ると約1,000件回答があるうち、20代、30代が20%しかなく、200人くらいしか取れていない。ターゲットが若者に絞られている中で、若者からもっと自分たちがどうしてほしいんだという意見を吸い上げる機会が、アンケートの他に何かあるのか知りたい。そういったミーティングとかいうものは開催されているのか。

事務局

総合計画の策定のプロセスの中で、今年、夏休みの宿題として「みんなが描く古賀市の未来」というテーマで小学校6年生と中学校3年生の全員と一部の他の学年の児童生徒に提案コンクールということで募集した。その結果、1,260通ほど集まり、それを市長以下全員で見て、優秀作品として約70件を選び、その児童・生徒を対象に古賀競成館高校に集まってもらい、市長との対話集会を行った。その中で子供たちの意見がかなり見えてきた。1,260通の作文には色々なことが書いてあり、子供たちの考えに大人たちが触れる、気づくという取組になった。高校生や大学生にもそういうアプローチをしないといけないと思っており、高校生については競成館高校との間で色々な形で交流があるし、大学生については、包括連携協定を福岡女学院看護大学、九州産業大学、福岡工業大学、福岡女子大学の4大学と結んでいる。これも総合計画になるが、来年度この4大学の学生た

ちで街づくりをテーマに話し合いをし、その結果を出し合うという場を設けようとしている。そういう場もつくりながら、若者たちの考えに我々が触れる、そして気づくということを進めていきたいと考えている。

野依委員

若者というと、働き出してすぐの方とか20代とかそういう方に選ばれる姿をイメージしていたが、もっと若い世代の人と接する機会をつくるのが難しかったり、意見を集約するのが難しいと思われる。そのような世代の意見が反映されるミーティングなどが開催されると良い。

事務局

今回のアンケートの分析はあくまで速報版であり、特にまち・ひと・しごとに特化するためには、ご指摘いただいた20代30代の方の意見を吸い上げた分析が大切と思っているので、その世代に絞った分析も次回報告したい。

松野尾委員長

次のステップではクロス集計することも考えているか。

九経調

考えている。今回はあくまで速報版だ。若者や女性の特徴がわかるようにクロス集計を行い、次回報告をしたい。

松野尾委員長

古賀らしさとは何かということを含め、情報発信力はとても大事と思っている。歴史的資源のみならず、人材、生産能力も地域資源がたくさんあるにもかかわらず掘り起こし切れていないところがある。福津市では、ブロッコリー生産者が評判を呼び、見学会に外部からリピーターが何度も来るとか、花農家を訪ねて実際に生産している様子を見るというような企画を多数している。古賀市もまだ魅力がたくさんあると考えられるので、何かしら掘り起こして行って周知して認知していくというプロセスが必要だ。

もう一つは、20代の若者に向けてというところ。子供たちの古賀市への愛着度を上げていくことを長く見据えていかないと、出て行ったきり帰ってこないことになる。長じて古賀はいいところだった、帰ってきたいとなるように、子供のときの経験や総合学習で古賀をよく知るなどが必要だ。

八女の歴史的な町並み散策、大川の町並み発見など街探検のようなことをやりながら愛着度を高めていく活動がなされている。そうすると一時的に学業で出て行かざるを得な

かったとしてもまた帰ってきて、ここに就業しようかとかなる。長期的視点の活動も重要と感じている。

PRは大事で、外部へのPRだけでなく、地元の方々が古賀に住み続けたいと思えるPRがとても大事だ。アンケートの中で、今後も古賀市に住み続けたいという数字は比較的高く出ていたが、アンケートにわざわざ回答してくれる人は、元々愛着のある人が多い。長年住んでるうちに愛着が出たり、移る理由がないので住み続けたいと回答している人もいるが、古賀市を積極的に選択する理由を見つけていくことも大事と感じている。

他にご意見、ご質問がなければ、本日の審議はこれで終了する。事務局はいただいたご意見を市の幹部や担当課にフィードバックして、第2期総合戦略の策定に引き続き十分に役立てていただきたい。

3. その他

事務局

次回の検証会議では第2期総合戦略の原案をお示ししご意見をいただきたい。1月末頃の開催を予定しており、後日日程調整をさせていただきたい。

松野尾委員長

では、すべての議題が終了したので、「令和元年度 第2回古賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証会議」を閉会する。お疲れ様でした。